

命に関わる発作を経験。漢方免疫増進治療と
自分の生活を見直しほぼ完治。

「自分で治す気管支喘息」 関野 一浩 54歳

松本先生

いつもお世話になっております。
ようやく気管支喘息もほぼ完治の状況となっておりますので
感謝の気持ちを込めて手記を書かせていただきました。
私の娘も2009年にクローン病と診断され、神奈川県
北里大学病院から松本先生のところに逃げ込んで、
治していただいたものです。本当に親子ともども感謝
しております。

2015年7月14日

2014年3月9日は自分にとって忘れられない日です。気管支喘息が悪化し呼吸困難で死にそうになって自宅から病院に運ばれた日です。それから約1年と3ヵ月、良くなったり悪くなったりを繰り返しましたが、ここにきて本当に気管支もスッキリしており、いつも先生から言われていた「漢方が治すんじゃなくて、あなた自身が治すんやで」という意味が分かってきましたので手記を書きたいと思います。同じ病気で悩んでいる方の少しでも参考になれば幸いです。

私の気管支喘息の症状は2012年ころから時々出ていました。痰がからむ咳が1ヵ月半くらい続き、しばらく治るということが2012年からの2年間で5回くらいありました。ただ、娘が以前から先生のお世話になっていましたのでステロイドの怖さは良くわかっていましたので、近所の病院でもステロイドの吸入治療はしたくないと断って、ツムラの漢方薬を出してもらって過ごしていました。ただ、2014年の2月くらいからはツムラの漢方薬も効かなくなり、歩く時も息切れがするような状態となっていました。2014年3月8日、いよいよ先生のところに行かないとこれは治らないと判断し、新幹線で神奈川県から先生のところに行き、気管支喘息の漢方を頂いてくることができました。ただ、もう時すでに遅しでした。私の気管支喘息は相当悪い状態になっていました。先生から漢方薬と一緒に「本当に苦しくなった時のお守りやで」とスプレー式の気管支拡張薬は出していただきました。最悪、そのスプレーを使えば、呼吸は楽になるだろうと思っていました。

2014年3月9日は、朝から、歩いたり、階段の上り降りをするだけで、ハアハアと息切れがして、しかたなく客先に行くのもタクシーで行きました。驚いたことに、タクシーの後部座席に乗り込み奥の座席に横移動するだけでも、もう死にそうなくらいに、ハアハアするのです。客先でタクシーを降りると、部下のエンジニアはスタスタ歩き、その後を追いかけていったのですが、ハアハア息苦しさが止まらずもうダメだと思った私は、スプレー式の気管支拡張薬をはじめて使いました。しかし、そんなスプレーを吸ってもすぐに楽にはなりませんでした。しばらく、椅子に座っていたらある程度良くなったので、打ち合わせを終えて会社に戻りました。会社では、ほぼデスクワークなので椅子に座っていればなんともないのですが、少しトイレに行ったりするだけでハアハアしていました。19時半に仕事を終えて、会社をでました。最寄駅の水天宮前駅まで歩いたら、たった10分の距離なのですが、これがまったく歩けないのです。ほとんどすり足のような状態でないとハアハアするので、10分くらい歩いては休憩して、途中でまたものすごく苦しくなったので、たまたま2回目のスプレーを吸入しましたが、やはりすぐ楽になるわけでもなく、40分くらいかけて駅まで行って、自宅近くの最寄駅からはタクシーで帰りました。タクシーを降りて、ようやく家に着いたという安堵感もあり、玄関の前の5段くらいの階段はなぜかスタスタ駆け上がることができ家の中に入りました。そしたら、なんだか息苦しいのです。「なんかこの家、酸欠みたいだ」と思い、「窓を開けてくれ!」と嫁さんと娘に言ってから、全く呼吸ができなくなりました。肺を膨らませることができない感じがして、「苦しい、苦しい」としか言えません。娘が私がおかしいことに気づいてくれて救急車を呼んでくれました。咄嗟に、少しでも体を冷やした方がいいと思って、自分で外に出て、ハアハア、ハアハアしながら救急車を待ちました。もしかしてこれで死ぬかもしれないと感じました。でも救急車が来て酸素マスクをすればすぐに楽になるんだと思って我慢しました。

すぐに救急車が来て家族3人で救急車に乗り込んで相模大野の救急病院に搬送されましたが、救急車の中で驚いたのは、酸素マスクをつけてもすぐには苦しさが治らないのです。その理由は血液中の酸素濃度を上げるには時間がかかるためです。病院で2時間くらい酸素マスクをして、ようやく倒れる前の状態に戻った感じです。入院は5日間しました。ステロイドの点滴であつという間に気管支喘息の症状は一時的に消えました。びっくりするぐらいに症状が消えたのにはある意味、感動しました。「死ぬ時に使うのがステロイドやで」と松本先生もおっしゃっていましたが、気管支喘息の死亡率が下がったのはステロイドのおかげだと実感しました。(ただし、ステロイドを完治目的で使うのはダメだというのは重々理解しています。)

入院していた病院から、一度、近所の気管支喘息の専門医にかかるように言われたので一応、行き、ステロイドの吸入薬をもらってすぐに松本医院に電話しました。その時は息子さんの若先生が電話口に出て、「気管支喘息の専門医でもらった薬は飲まなくていいです。しばらく処方した漢方を飲んでください」

とのことで、私の漢方治療がようやく始まりました。といっても、入院してステロイド治療で一時的にすっかり良くなってしまっていたため、5月に海外出張をしたタイミングもあって、漢方は2ヵ月くらい休んでしまいました。ところが、また咳が出るようになってきたので、2014年7月くらいから漢方を再開しました。漢方を飲むとまた良くなりましたので、それから現在までずっと継続しています。

気管支喘息の特長として、夜間はゴロゴロと痰がからむような呼吸がするのですが、昼間はなんともないというのが症状です。ただ、その日の体調によっては、階段の上り下り時に少しハアハアする時もあったり、なんともなかったり、そのようなことを繰り返していました。ところが、今年のゴールデンウィークの前にまた体調がものすごく悪くなってきました。最悪だったのは、5月13日から3泊4日でシンガポールに仕事で行った時です。飛行機に搭乗する前からちょっと息苦しい状態だったのですが、飛行機の中でさらに息苦しくなりパニックになりそうでした。狭い2席シートでシートベルトをした状態で丸くなって寝ていたのが原因だと思うのですが、とにかく肺を広げて、落ち着いて大きく深呼吸をしてパニックにならないようにしようと自分に言い聞かせました。(パニックになると過呼吸症となりさらにひどくなると考えたからです。ここは一度、救急車で運ばれた経験が生かされたと思います。)

シンガポールでは、漢方を持って行ったのですが、ホテルなので煎じることはできない為、熱いお湯を作って薬を浸しておき、それを飲んでいました。咳が酷く出たり、熱はないのですが体が非常にだるい状態が続きました。そして、最終日によりやく体調が戻りました。実はこの時、初めて1週間くらいアルコールを飲むのをやめました。シンガポールから戻って、また体調が良くなったのでアルコールを飲み始めましたが、すぐにまたものすごく体調が悪くなったので、5月22日から禁酒することにしました。でも、私の体調はどんどん悪くなっていくのです。もしかして、また呼吸困難になるのではないかと考えたのか？また入院しなければならないのでは？というくらいに悪くなっていきました。入院するくらいなら、ここでステロイドの吸入でもやっっておうかと考えたくらいです。5月30日から5月31日の土日がそのピークでした。普通に座っていても息苦しく、この土日は朝から食欲もなく殆ど絶食状態で過ごしました。インターネットで気管支喘息のメカニズムなどの解説をしている情報を見たり、こんにゃくが喘息にいいということが書いてあったので、蒟蒻畑というゼリーだけ飲んで寝ていました。その時に、なぜこんな状態になってしまったのかと考えました。そこで、ようやく「もしかしたら、これまで夜遅くまで酒を飲んでいて生活が良くなかったのかな？」ということに気が付きました。私の自宅は相模原市というところにあります。会社のある茅場町まで2時間以上かかるのですが、仕事やプライベートで酒を飲むことも多く、帰ってくるのは午前1時、寝るのは2時~3時で、睡眠時間は3~4時間という日々をずっと過ごしていました。自分はナポレオンと同じで睡眠時間4時間でも眠くならない男だ！と思っ

ていたのです。また、酒を飲んで大騒ぎしたり、カラオケで自分はいまいだらうとばかりに大声で怒鳴るように歌うのもまた楽しく、それが自分のストレス発散の手段だと思っていました。さらに、アルコールが入ると、自分はなんだか色々と楽しい発想がわくこともあって一人で飲んで帰るようなことも度々ありました。

松本先生に「漢方が治すんじゃないくて、あなた自身が治すんやで」と言われた意味はなんでしょう？それは自分自身を振り返るということだと思いました。「これまで自分が気管支喘息になるような行為をしていたのではないか？だったら、もう酒を飲むのをやめよう」と思ったわけです。そして、「早く健康になって、家族とともに楽しくスポーツでもできるようになりたい！」と強く思いました。不思議なことに、そんなことを考えつつ5月30日、5月31日のピークを乗り越えたら、私の体調はどんどん良くなっていきました。5月22日から1ヵ月以上は禁酒して、最近は少しは飲みに行きますが、かなりセーブして睡眠時間も十分とるように心がけています。最初はビールであとはジンジャエールやウーロン茶を飲むこともあります。一人で飲むのはやめています。体調はもう完全に良くなっています。夜間に気管支がゴロゴロする感じもないですし、昼間は階段をスタスタ駆け上がることもできます。

私が現在、ここまで回復できたのも、本当に松本先生のおかげだと思っています。ありがとうございます。また、私が松本理論を信じるようになったのは、娘の病気があったからなのです。2009年に娘はクローン病などと言われましたが、現在はすっかり体調も良く、なんでも食べられる生活をしています。あの時、西洋医学のステロイド治療を続けていたらと思うとゾッとします。その娘の回復ぶりを見て、私も先生を信じて治療をすることができました。また、毎日私の漢方を作ってくれている家内は松本先生を見つけてくれた恩人でもあり、家内にも本当に感謝しています。

気管支喘息という病気は、当たり前のようにステロイド吸入治療が登場しますが、ただ症状を抑えるだけで完治しません。それだけでなく、IgE抗体が抑えられるとIgG抗体に代わり違う病気となる場合もあると聞いておりますので本当に恐ろしいと思います。漢方治療であれば私のように完治の道が見えてきます。自分の普段の行いの悪いところや、病気の原因に早く気が付けばもっと早く治せるかもしれないと思います。これからも自分の不摂生に注意しながら楽しい人生を送りたいと思います。

以上